

<調査研究事業：近接する都市整備に伴う相互波及・効果を踏まえた経済効果の検証に関する調査研究（令和2年度）>

○近接する都市整備に伴う相互波及・効果を踏まえた経済効果の検証

・研究施設、インキュベーション施設等の集積による、にぎわい創出

取組団体：川崎市

取組内容：「新川崎・創造のもり」事業

1. 取組の背景・目的

川崎市では、新川崎駅前において、「新川崎・創造のもり」事業による研究開発機能集積を核としたまちづくりを進めている。具体的には、川崎市幸区、多摩区にかけての JR 南武線沿線の工業地域、準工業地域を、積極的に研究開発型産業の振興を図るべき地区として位置付け、研究開発拠点の立地をこれまでに誘導してきた。また、地域に立地する企業や大学を中心に構成される、「新川崎地区ネットワーク協議会」を設立することで、産学官連携の取組が強化されている。このように、ハード面とソフト面から研究開発機能を充実させることで、駅前、駅周辺におけるにぎわい創出を目指している。

2. 取組の内容

新川崎地区は、図表1のように、A地区からF地区に区分されているが、D区の研究開発・交流ゾーンである「新川崎・創造のもり」では、慶応義塾大学の研究施設「K2（ケイスクエア）タウンキャンパス」を始め、インキュベーション施設「かわさき新産業創業センター（KBIC 本館）」、「NANOBIIC」、「AIRBIC」が開設された。

図表1 新川崎地区の企業・大学立地状況



出典：新川崎地区ネットワーク協議会パンフレット

(https://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000096/96325/SKNC_leaflet.pdf)

図表 2 新川崎・創造のもり



出典：新川崎・創造のもりパンフレット

(<https://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000036/36039/202204moripanf.pdf>)

また、平成 24 (2012) 年には、新川崎地区のポテンシャルを活かし、産学官連携強化を図るため、「新川崎地区ネットワーク協議会」が設立された。この協議会では、川崎市が事務局となり、民間企業 85 社 (令和 4 (2022) 年 8 月現在)、大学、関係機関によって構成されており、主な活動や会員による取組は、図表 3 のようになる。

なお、4 大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアムとは、慶応義塾大学、早稲田大学、東京工業大学、東京大学が「新川崎・創造のもり」に設立した研究教育拠点である。施設内のクリーンルームには 35 種類以上の精密加工、観察装置が備え付けられており、企業の利用も可能となっている。

図表 3 協議会活動・会員の取組



出典：新川崎地区ネットワーク協議会パンフレット

(https://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000096/96325/SKNC_leaflet.pdf)

3. 成果・課題

以上のように、「新川崎・創造のもり」では産業創出や育成機能の集積を図ってきた。これとともに、その周辺には良質な都市型住宅の建設が誘導されてきた。その他、新川崎駅前歩道橋、ロータリー、駐車場等の整備も進められ、快適なまちへと変化している。まちづくりの観点から、このような点にはぎわい創出を目指した成果の一つであると考えられる。

【参考】

<URL>

川崎市「新川崎・創造のもりの事業推進について」:

<https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000036039.html>

川崎市「新川崎地区ネットワーク協議会」:

<https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000096325.html>

4ナノ・マイクロファブ리케이션コンソーシアム:

<http://nano-micro.sakura.ne.jp/home/>

<資料・文献>

新川崎・創造のもりパンフレット:

<https://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000036/36039/202204moripanf.pdf>

新川崎地区ネットワーク協議会パンフレット:

https://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000096/96325/SKNC_leaflet.pdf